



Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 77 号

・発行日 / 2008 年 12 月 10 日

・事務局 / 〒422-8053

静岡県駿河区西中原 2 - 7 - 63 - 1001

草野計雄方

・郵便振替口座 / 00150 - 0 - 134994

・発行所 / クリスチャンパートナーズ

・Tel / Fax 054-283-9317

・e-mail / cnecc-kk@mail.wbs.ne.jp

・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/

「人生の年月は七十年程のもので。
健やかな人が八十年を数えても
得るところは労苦と災いにすぎません。
瞬く間に時は過ぎ、わたしたちは飛び去ります。」

(旧約聖書 詩編 90 編 10 節) 理事長 木ノ内一雄

今年もまもなくクリスマスです。近頃、特に月日が過ぎるのが早く感じられるのは、私だけではないと思います。

詩編 90 編では神の永遠性とわたしたち人間の有限性が対比されています。私たちがどれほど長生きしても、死で終わるならその生は結局は空しいものとなります。詩人は人間の死には他の動物とは異なり、私たちの罪に対する神の怒りが伴っていると教えます。自然の死だけでも恐ろしいのに、神の裁きもあるとするなら、死はより恐ろしいものとなります。

詩人は死の恐怖から逃れる唯一の道は神への「祈り」であると教えます。天地の創り主である神こそ私たちの救い主だからです。そして、事実、天の父は私たちを死の恐れから救うためにご自身の独り子、主イエスをこの世に遣わされました。このことこそクリスマスの出来事でした。主イエスはこの世で苦難を受け、十字架で私たちの罪を贖われました。神の私たちへの怒りは主イエスの命によって和らいだのです。

クリスマスは世界中の人たちが御子イエスの誕生をお祝いします。旧約聖書の約束が成就し、神の救いが事実になったからです。永遠に生きる望みが私たちに与えられ、人生は死で終わりとなる空しいものではなくなったのです。ご自身の命をも惜しまれないで私たちが救われたことによって、神の愛は明らかにされました。

私たちは世界中の子供たちにこの神の愛を届けなければならないと思います。子供たちに学費を援助する私たちの使命もこのことを目的としています。

国際 CEO 会議の出席者たち(報告次ページ)



前列: ライ(シンガポール)、ルイス(米)ジョーンズ(英)
後列: ヨン(マレーシア)、チャン(シンガポール)、草野、竹澤
ヴァン=デン=ヘンゲル(オーストラリア)、ミッチェル(カナダ)

初めての国際会議を体験して

理事 竹澤三佳子

私がクリスチャンパートナーズに関わって今年で7年たちました。毎年父(草野元理事長)や理事の方々が世界の各国へ視察や会議に出かけられ、理事会でその報告を聞く立場でしたが、今年は自分が報告することになりました。光栄であり、でも責任も感じていました。

決心したきっかけは、父にとって最後の国際会議になるのでそれを見届けたいこと、83歳の高齢で同行したいこと、今まで「クリスチャンパートナーズ通信」を読み活動を知ったつもりでいたので、一度自分の目で確かめたかったことなどです。

9月29日シンガポールのチャンギー国際空港に午後に着、空港にはシンガポールPI代表のジェームズ・ライ氏とオーストラリアPIのキム・バン・デン・ヘンゲルさんが出迎えて下さり、ライ氏の車でシンガポールとマレーシアの国境である全長1050mの橋(コースウェイ)を渡り、マレーシア最南端の町ジョホールバルのPulai Springs Resortに無事着きました。ジョホールバルはシンガポールと異なり、イスラム文化の影響の残るエキゾチックな町ですが、毎日国境を越えてシンガポールへ通勤している人が多く、この日もオートバイの渋滞は激しいものでした。



草野理事 マレーシアPI責任者李盛光氏 竹澤理事
(Lee Sing Kong)

会議は翌朝30日から1日夕方迄の2日間で、朝から晩まで食事と一緒にメンバーの方々と行動しました。30日は各国の活動報告から始まりました。日本は最初で、半年間かけて制作したパワーポイントによるプレゼンテーションは、20分の発表時間と10分の質問時間内に分かりやすくまとめ、各国の質問にも父は明確に答えることができました。その後、オーストラリア、カナダ、シンガポール、イギリス、アメリカと続き、議長のカナダPIブレント・ミッチェル氏の采配の下、スムーズに進行していきました。



シンガポール事務所のサンドラと

午後から翌1日までは自由討議で、現在進行中の問題について話し合われました。日本に関係する議題は特にないため、父と私は話し合いを聴いている状態が多かったように思われます。こうしたことは、日本の立場が各国PIと同じようには組織の中心になく、参加する意味が薄い印象もありますが、今回は有意義に感じることができました。

それは皆で話し合われることは皆の問題だから話し合いに参加し、又日本と密接な関係にあるシンガポールが抱えている問題を、同じ目線で考えることは、私たちの活動が時代遅れにならない為に必要と思うからです。

各国PIも日本との20年以上の関係を尊重し、これからも繋がっていくことが当然のように親密に、又温かく見守ってくださっていることを実感しました。

パートナーズ インターナショナル代表者(CEO)会議 理事 草野計雄

昨年7月に英国で開かれたCEO会議は、今年は9月末にマレーシアで開催されました。議長はカナダパートナーズインターナショナルのブレント・ミッチェル氏でした。同氏はあらかじめ議題や資料の準備を要求せず、各団体の緊急課題や重要な関心事項を会議内で取り上げ、率直に討議していくという姿勢で臨まれました。(前回会議については第73号をごらんください)

日本からの報告は初日の第一番目に予定されていました。報告者の草野にとって今回は最後の公式出席であることや、かなり事前より報告や提案事項の準備をしていたことが、議長に認識されていたように思われました。

私はまずこの配慮に感謝し、昨年来のクリスチャン パートナーズの活動経過は決算書・予算書等で理解して頂けることを述べ、インド・ミゾラム州養護施設の英語教室援助については、主要援助 PI のカナダが支援を終了するのに伴って終結し、新たに始めたアフリカ・ガーナの開発農業プロジェクトには、すでに3回援助金を送金している現状を報告しました。又、クリスチャン パートナーズのリーフレット改訂版を立案中であることも各国にお知らせしました。 パワーポイントで活動報告を見る会議の様子



次に私の検討課題である、シンガポール PI 事務所に日本から送金している SAC 援助金の情報管理の協力問題を取り上げました。

クリスチャンパートナーズでは、SAC 援助金に関する会計はコンピューターで処理し、会員からの照会に応じられるようにしています。現在シンガポールへの送金データも英語で提供できる体制が完成しました。シンガポール PI においても、この SAC の情報管理システムが有効に活用され、宣教の効果に貢献するであろうと説明しました。

現在、西カリマンタンの管理運営はインドネシア側に一任しているため、SAC の仕事に関わる職員への報酬金額などは私たちには知らされていません。しかし、今後は透明性を重視して欲しいとお願いしました。

クリスチャンパートナーズの運営は発足当時から理事の無報酬で運営されています

(事務所も職員もなく、各国 PI の中で異例)。一方で活動が成長するにも拘わらず、資金面や理事の高齢化で限界が近づいてきています。この先活動を発展させていくには、理事の若返りや運営方法の変化を考慮しながら、組織の活性化を図る

必要があると思われます。

以上の報告の後、祈りを捧げ終了しました。



20 余年の協力を讃えあうシンガポールのポール・チャン師と草野理事

インドネシア宣教地ツアーに参加して (2)

理事 宮澤玲子

西カリマンタン

5月23～30日、アンテオケ宣教会主催のミッションツアーに参加。第76号に続き後半の報告です。



ヨシュア、アグスティナ、高橋先生、宮澤

4 日目、バリ島のホテルをチェックアウトして専用バスで空港へ、ジャカルタで乗り換えて午後1時30分西カリマンタンの州都ポンティアナックに着きました。高橋めぐみ先生はじめ、ATI 神学校のパムジ校長とスタッフがアンジュンガンから2時間かけて空港まで出迎えに来てくださっていました。一行はまず、YPPII (インドネシア宣教協力会)へ。新しい事務棟と女子寮ができたことを皆様喜んで居られました。女子寮はこの地ではとても大きな働きをしています。ここでクリスチャン パートナ

ーズの奨学生ヨシュア君(第76号3ページ参照)、アグスティナさん(第74号2ページ参照)に会うことができました。

専用バスで一路アンジュンガンへ。高橋先生のお住まいである宣教師館に着いた時には、懐かしさがこみ上げてきました。1998年1月、鳥海百合子さんと私は初めて西カリマントンに行き、郡都サンガウへの途次、シンガポール事務所の職員たちと一緒に、突然この宣教師館に大田先生ご夫妻をお訪ねし、歓待していただいたのです。10年後に再びここをお訪ねして感慨深いものがありました。

その日は高橋先生が用意してくださった素晴らしく美味しい豊かな夕食をいただき、千金(ちがね)先生と松崎さん、私は宣教師館に、安海(あつみ)先生、K夫妻、M姉、S姉はゲストハウスに分宿してアンジュンガンでの第1夜は更けていきました。神学校からは翌日の派遣式のための準備でしょうか、夜遅くまで元気のよい音楽が洩れていました。

5日目、5月27日はいよいよこのツアーのハイライト、4年生が伝道実習に送り出される派遣式です。雨に洗われたキャンパスのスロープや木々の緑が輝いて目にしみるようでした。式は彼らが長い時間をかけて練習したロックの演奏と賛美によって始まり、その強烈なビートは送り出される神学生たちを力付け、励ますかのようでした。

今回派遣されるのは4年生男子10名、女子12名、計22名。式は礼拝形式ですすめられ、賛美はギターやロックの伴奏で、また聖歌隊による賛美は混声4部のアカペラであったりと変化にとみ、いずれもたいへん美しく力強いものでした。

10年前にここで奉仕なさった千金町子先生が証をされ、使徒言行録1章8節「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そしてエルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また地の果てに至るまで、わたしの



派遣される神学生たち

証人となる」により学生たちを励まされました。安海先生の説教はテモテへの手紙一1章18節とマルコによる福音書3章13~15節により「主が選ばれ、任命し、身近に置き、遣わされるのである。主がお望みになったから弟子たちは来たのである。実習の中で落胆することがあるかもしれない。しかし神は必ず目的を果たされるであろう。弟子たちは聖霊によって勇敢な証し人に変えられたのである」と力強く語られました。

賛美と祈りと神学生たちの誓いの言葉、また来賓のスピーチと続き、最後にパムジ校長が挨拶をされ、海外からの祈りと支援に対し、特にクリスチャンパートナーズに対して丁

重な感謝の言葉をのべられました。

若い神学生たちの溢れんばかりの熱気と感動裡に派遣式は終了し、別室に用意されたスタッフのご家族による心尽くしの食事を参列者全員でいただきました。このとき高橋先生のお計らいで、クリスチャンパートナーズの奨学生ウミ・プルワンティ姉(写真左)(通信第65、74号参照)と、木ノ内夫妻が支援しておられるマルティヌス兄(写真次ページ)(第67、70号参照)にお会いすることができました。

また、インマヌエル中学のスパディ校長は、この神学校の卒業生で派遣式に出席されていて、私たちが支援している子





宮澤、高橋先生、マルティヌス神学生

どもたち一人一人の写真・履歴・成績表をお持ちになり、クリスチャン パートナーズの皆様にくれぐれもよろしくと、丁寧なご挨拶をいただきました。

【皆様の SAC 支援金のうち 1/4 は規約により日本の事務経費としていただいておりますが、私たちには事務所も電話もなく、手弁当でやってきた小さな NGO ですので、それらはすべて積み立ててきました。支援金の 1/4 積み立てと、折りにふれて皆様がお送りくださるご寄付を合わせたものが、アンテオケ宣教会を通してセイダウン小学校教師給与支援、インマヌエル中学校生徒奨学金、ATI 神学生奨学金等にささげられています。】

午後はマンドールへ。途中で 1990 年 1 月、交通事故のため死去された安東栄子宣教師（アンテオケ宣教会派遣）の事故現場に立ち寄り、全員で黙祷を捧げました。インドネシア宣教協力会によって建てられた記念碑には、「ここに 1 粒の種が蒔かれた。大きく成長し実ることを信じる」と記されてありました。

マンドールには太平洋戦争中に起きた日本軍による中国系住民虐殺の記憶が風化しないように、大きなレリーフが二つ建てられています（悲劇の原因は抗日運動鎮圧のためといわれています）。前回来た時にはレリーフの表面は黒の凹凸でしたが、今回は人物が金茶色に塗り直されており、一層生々しく感じられました。二枚のレリーフの間に記念碑があり、「日本軍政時代の戦争犠牲者の墓標 1942～1945 単なる過去の記念として記憶にとどめるのではなく さまざまな形の支配と戦う勇気を持ち続けることができるよう祈念する」と刻まれてあります。戦争は西カリマンタンの奥地の辺鄙な農村にもこんな傷痕を残していたのでした。

アンジュンガン最後の夜は、高橋先生のお住まいである宣教師館でスライドを見ながら、インドネシア宣教協力会の【2008 年西カリマンタン報告】を聞きました。写真は ATI 神学校の神学生、スタッフのご奉仕によるものでした。住民はダヤック族、スンクン族でその多くは山岳地帯に住んでいます。竹と萱葺き屋根の質素な家に住み、収入源はカカオ、こしょう、米など農作物の販売によりますが、収穫物を背負い何十キロも徒歩で仲買人の家まで運ぶという経済行為に頼っているところも少なくありません。子どもたちは初等教育も満足に受けられないのが実情です。

教育事情が改善されない第一の理由は貧困ですが、道路がないため子どもたちは学校のあるところまで行くことができません。交通手段はセスナ機と小舟に限られ、燃料費が高価です。学校は教師の数が足りず、給料は安くしばしば遅配となり、生活が不安定ということでした。宗教は偶像礼拝です。むかし首狩りをした時代の頭がい骨が安置されて、礼拝の対象となっているところもあります。人々は集会より農作業と生活資金を得ることを優先します。

このような中で各地の中学校の寮が担っている働きの重要さは計り知れません。スタッフは寮生の徳育・知育に加え、寮の存在を通して地域の人々への霊的奉仕も担っているのです。

祈りの課題として掲げられていたのは 寮生活を通して福音を聞くことができるように

人々の霊的な目が開かれるように 建物の修理費用が与えられるように
寮の働き人の健康が守られるように 雨水をためるタンクが設置できるように
等々切実なものであり、私たちも彼らと祈りを合わせたいと切に願ったことでした。

翌朝、パムジ校長、高橋先生方に見送られてポンティアナック空港を発ち、帰途に着きました。

マルティヌス神学生の便り

アンジュンガンの ATI 神学校で勉学中のマルティヌス神学生から、
宮澤理事に託して寄せられた便りを、稲葉夫人に訳していただきました。

理事 木ノ内和美

今日に至るまでのご援助とお祈り、更にお励ましに心より感謝しております。私はお蔭様で元気に暮らしております。現在神学校 6 年生の前期に入り、順調に行きますと、来年 1 月に ATI 神学校を卒業する予定です。卒業にあたり、卒業論文の作成を始めています。課題は「キリストについての神学概念と相互関係」(ポール F・クニッターの考えによるキリスト神学の研究)です。卒業できますように一生懸命頑張ります。必要な力が与えられ、健康が支えられますように、また、この論文が無事に完成できますように、どうぞお祈りください。将来、どこに赴任することになるかまだ分かりませんが、私に最もふさわしい赴任先が備えられることを信じております。

ご夫妻のお働きの上に神様のお恵みがありますようにお祈り致します。将来ご恩返しができるように頑張ります。いつか機会がありましたら、お会いできるとを心から楽しみにしています。ご支援、お祈り、全てのことに感謝します。主イエス・キリストのお恵みがいつもありますように。

西カリマンタン州 アンジュンガン
マルティヌスより

11月中旬に届いた、草野理事宛の高橋めぐみ先生からのお便りの抜粋

毎年度沢山の献金をカリマンタンの子ども達のために捧げてくださり、心から感謝いたします。先週の金曜日は、ATI 神学校で断食祈禱の日でしたが、私たちがクリスチャン パートナーズのために、支えてくださっているお一人お一人の祝福と、新しい支援者が与えられていくようにと祈りました。

私はカリマンタンの将来は明るいと思っています。自然の資源は豊富ですし、太陽光線も強くて植物の成長が早いからです。子ども達がよい教育を受けて、与えられている自然のめぐみを上手に利用できるようになれば、可能性は大きいと思います。クリスチャン パートナーズの皆さんがこの一端を担ってくださっていることを、心より感謝いたします。

【理事会報告】第 154 回理事会は 2008 年 10 月 27 日(月)一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。2008 年 7・8・9 月度会計報告承認。マレーシア開催の CEO 会議報告。新リーフレットの改定案は次回提示。ガーナプロジェクトの種子等購入支援金は無事到着。「通信」第 76 号のカラー版は高価なため予算超過の可能性。第 77 号の内容協議。原案は mail 配布で、12 月 10 日発行予定。SAC 里子から今年 2 回目の手紙とクリスマスカード到着。手紙の翻訳ができ次第、里親に送付。里親 里子リストは mail で理事に配布。

第 155 回理事会は 2009 年 1 月 26 日一ツ橋学士会館で開催予定。

<編集後記> 今年も残り少なくなりました。皆様の変わらぬご支援に支えられて、2008 年も西カリマンタンの子どもや学生たちが教育の機会を与えられたことを、心から感謝いたします。来年もぜひお力添えをお願いいたします。

前号は初めてカラーで印刷してみましたが、高価で毎回というわけには参りません。年 1 回できればと思います。

主のご降誕を祝い、新しい年も皆様の健康が守られ、幸多い日々でありますように祈ります。

鳥海百合子